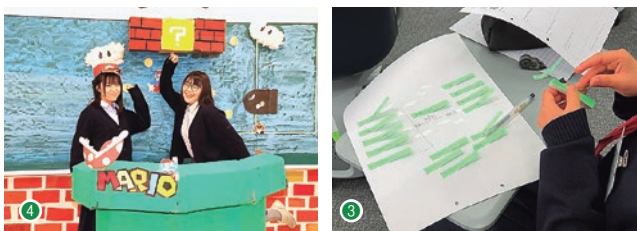


①キャンパスツアー（京都大学）②STAR WATCHING 2024。中学校の理科部が主催し、地域の小学生が保護者と共に500人以上が参加した③言語技術教育では「パラグラフ」を組み立て、世界標準の形式で論文を構成するトレーニングを段階的に行う④9月の文化祭⑤10月に開催される運動会だけでなく、履正社ではイベントが満載。心身両面をフルに刺激する



体系的な「言語技術教育」 プログラムで母語運用能力を伸ばす



履正社中学校・高等学校

PICK-UP

言語技術教育の学習成果 「履中新聞」が完成

言語技術教育を1年間学んだ学芸コース中学2年生たちが今年3月、「履正社中新聞」を作成し好評を博している。誌面は先生へのインタビューをはじめ文化祭などの学校行事、部活動紹介など同校の時事ニュースが盛りだくさんの内容。企画から取材、記事の書き起こし、写真撮影、誌面構成、新聞発刊まで全ての工程を生徒たちが主体的に行なった。「協力頂いた産経新聞社の担当者からは「手直しはほとんどないほどの出来」とお褒めの言葉をもらいました。言語技術を学び始めて1年とはいえ、この新聞は学習成果の証のひとつです」（篠岡校長）

言語技術教育とは、簡単にいうと言葉を有効に使いこなす

本校では2023年度入学生より学芸コース（中高一貫6年）で「言語技術教育」を取り入れました。すべての学力の土台は体系立った母語教育にあると捉え、つくば言語技術教育研究所（三森ゆりか所長）の指導、監修のもと、独自の中高6年間のプログラムを作り、中学では週1回年間50時間の授業を行っています。



篠岡 正和
高等学校 校長



ためのスキルです。欧米では「Language arts」と呼ばれ、世界の多くの国々で指導されている世界標準の母語教育です。その目標は4つあります。①自分の力で物事を論理的、批判的、分析的、多角的に検討し、適切な判断を下す能力を持つこと②自立して問題解決する能力を持つこと③考察したことを口頭や記述で自在に表現できること④自国の文化に誇りを持つ教養ある人間を育てることです。具体的な授業の内容は、問いに対して結論→根拠→再主張の型で返答する問答ゲームをはじめ、パラグラフ・ライティング、絵画や物語の分析などがあります。生徒の発達段階に応じて情報（読み込み）（読む、聞く）、思考（論理的、批判的、分析的、多角的、創造的に考える）、表現（話す、書く）スキルを、積み重ねて体系化されたプログラムで学んでいきます。欧米の生徒たちは小学生から高校生までの12年間をかけてこうしたス

大学入試に役立つだけでなく 社会に出てからも即戦力に

言語技術教育はスポーツとの親和性も高く、高校の野球部、サッカー部、女子野球部、ラグビー部でも座学を取り入れられました。目の前の状況を素早く捉え、空間認識したものを言語化する訓練をつむことでプレーの質向上に繋がると期待しています。こうした言語技術教育を中高の6年間で積み重ね、母語運用能力がしっかりと身につけば、大学の総合型選抜入試、国公立大二次の論述などの場面で役立ただけでなく、社会で働き出してからも、自分の意見をきちんと表現して伝えられる人として活躍できるはずです。グローバル化が進む社会で世界の人々と互角に渡り合っていくためには、英語力を磨くだけでなく、こうした母語の言語スキル向上こそがいま最も求められているとも考えています。

SCHOOL DATA

履正社中学校・高等学校 <https://riseisha.ed.jp>
〒561-0874 大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号 TEL.06-6864-0456

